

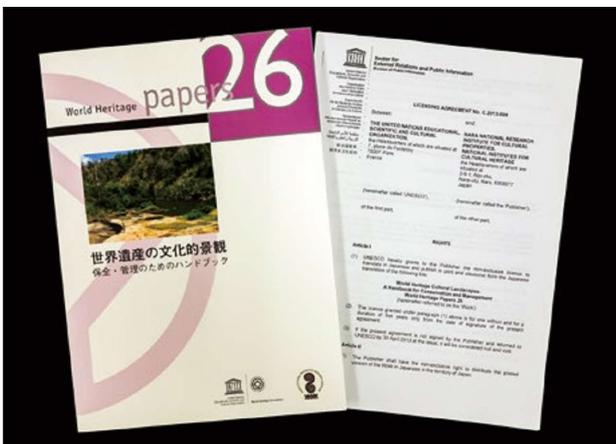
『世界遺産の文化的景観』 日本語版の刊行

景観研究室では、世界遺産をはじめとした諸外国の文化的景観の保護・マネジメントに関して、日本との比較研究を2011年度より実施しています。

その一環として、ユネスコ(国連教育科学文化機関)世界遺産センターが2009年に英語版を出版したWorld Heritage Papers第26号の翻訳等をおこない、今回、『世界遺産の文化的景観 保全・管理のためのハンドブック』として刊行しました。これは、奈良文化財研究所とユネスコの翻訳出版権契約にもとづくものです。日本語版では、英語版からの翻訳に加え、キショー・ラオ世界遺産センター長から「日本語版のための序文」をご寄稿いただいたほか、景観研究室による解説文等も新たに加えました。

本書は、世界遺産に登録された文化的景観の保全・管理について、実践的な観点から豊富な事例研究も交えてまとめられたもので、現場で取組を進める多様な立場の人に対して役立つことを目指したものとなっています。ここで示された保全・管理の考え方やプロセスは、世界遺産の文化的景観に限らず、現代の生活と密接に結びつき、今も生きている文化遺産(リビング・ヘリテージ)全般についてあてはまる内容であり、極めて示唆に富んでいます。

文化的景観は比較的新しい文化財の種類であることから、景観研究室では、今後も諸外国の動向も注視しながら、価値評価や保護手法に関する調査研究を進めていきます。なお、本書電子版は奈文研学術情報リポジトリおよびユネスコ世界遺産センターウェブサイトでも公開していますので、ぜひご覧ください。(文化遺産部 菊地 淑人)



ユネスコと締結した契約書と今回完成した日本語版